

とく
徳

ほう
朋

悩むということはいいことだ

中川 皓三郎



なかがわ こうざぶろう

1943-2020

大阪府出身。

大谷大学短期大学部教授、
帯广大谷短期大学学長を歴
任。

現代は、それこそ自分というものを一番確かなものとして、その自分を前提にあるわけです。ただそれは結局、行き詰ってしまう。それがさまざまな場面に出て来てると思うんですね。それはどうしてかという、その一番確かなものだということにいわれるこの「私」は、絶対に受け入れることの出来ないものを持っているという事なんですね。それが死であったり、身近なものであったりするのです。

しかしそのことが、ある面ではとても大切なところなのです。どういう事かという、苦しむ、苦悩するということが大切な事なんだということです。(中略)

しかし現代を生きるわれわれにとって「悩む」というようなことがいいことだとは思えないのです。悩むのは自分に力がないからだ。自分が情けないからなんだ。そういう意味で悩むのであって、自分に力があり優秀なものであるならば、悩むという事なんか何もないんだと思って生きているわけです。現代は悩み苦しむということはマイナスの価値であって、苦しみをいろいろな方法でなくそうとすることがあります。悩み苦しみを解消し、思い通りに生きようとするのです。

ところがこの「私」を前提にして生きる限りは、絶対に行き詰るんだというのです。自分が、

そして隣にいる人が思い通りにならないのです。そういう思い通りにならない自分と、思い通りにならない他者とが生活を共にして生きながら、思い通りになることが人間の生きる意味であり、人間の幸せだと考えて生きている。そのような生き方は虚偽きよぎなわけです。幻想げんそうなんだということです。

ですから悩むという事、苦しむという事がとても大切なのです。この「私」を前提にして生きる限りは、どんな人も行き詰るんだと。つまり行き詰るということが、この「私」を問い直す、とても大きなチャンスなんだと。本当に新しい生き方、そこに見いだすチャンスなんだということです。

親鸞聖人も二十九歳のときに二十年もの間修行生活を送った比叡山ひえいざんを下りたということは、やはり行き詰ったわけです。そして、その行き詰まりを通して、あらためて教えといいますか、法然上人ほうねんしょうにんに出遇っていったのです。そして、ご存じのように、法然上人ほうねんしょうにんから「ただ念仏しなさい」と教えられたということがあるのです。

(『人間であ在ることの課題』)



悩み行き詰るという事は、自分を見直す大切なチャンスです。飛び上がる時には一度沈まなければならないので、その機会に見直し・学ぶことが大切です。(哲弘 拜)



この「徳朋」は仏教をよ拠り所としている方々の言葉に直じかに触れ、この身で感じる事を願いとして毎月作成しています。多少難しい表現もあるかと思いますが、気にせず読んでみて下さい。